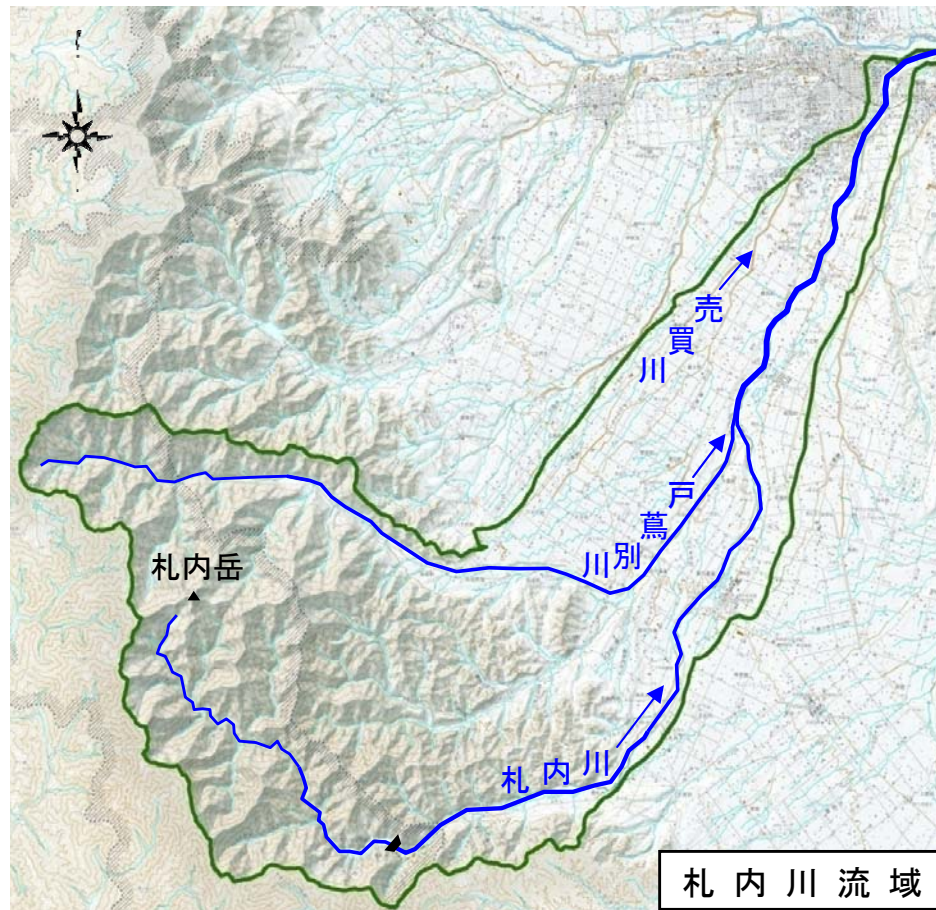
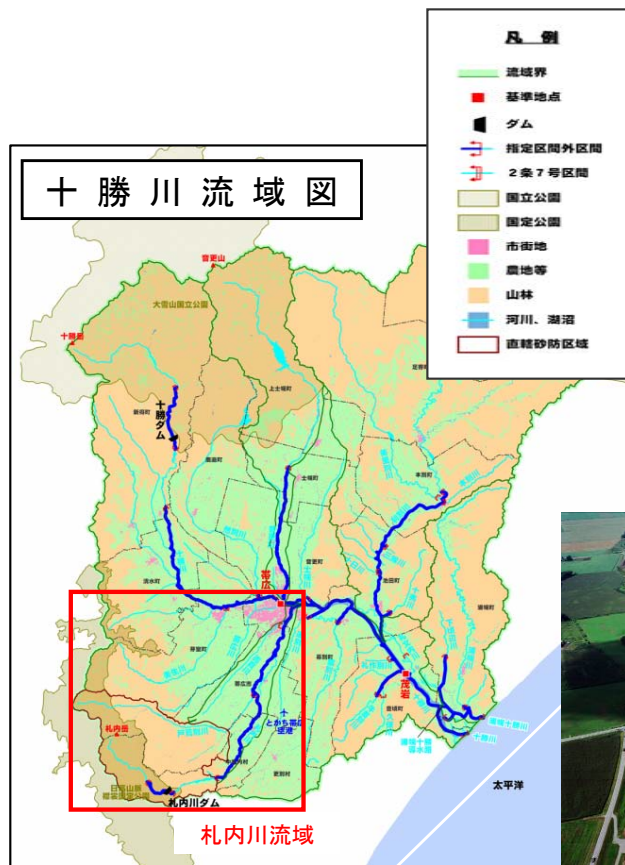
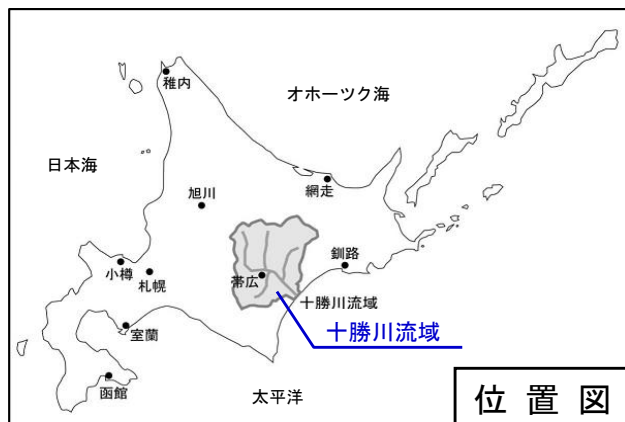


資料2

札内川における取り組み

十勝川流域委員会(平成24年12月27日)



○十勝川水系札内川

- ・流域面積：724.9km²
- ・幹川流路延長：82.0km

○札内川の概要

- ・十勝川流域は、大雪山国立公園、阿寒国立公園、日高山脈襟裳国定公園に囲まれるなど豊かな自然環境に恵まれている。
- ・札内川は河床勾配が1/100～1/250の急流河川である。川幅が広く、砂州の動きが活発であることから、**礫河原等の自然裸地が多い**といった特徴がある。
- ・流水の作用により、瀬と淵が形成され、多様な流れをつくりだしている。



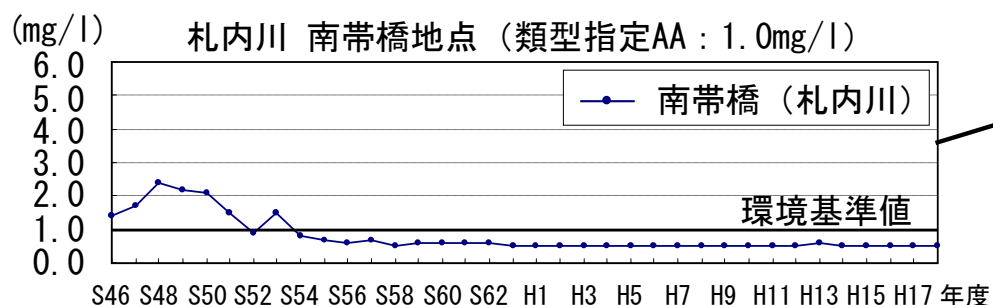
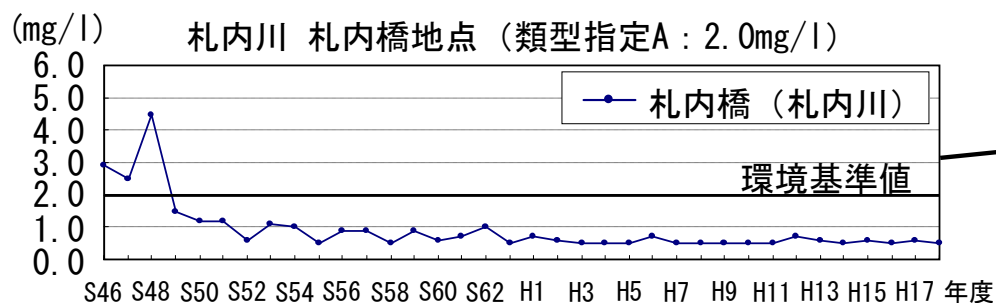
▲十勝川合流点35km付近



▲十勝川合流点より10km付近

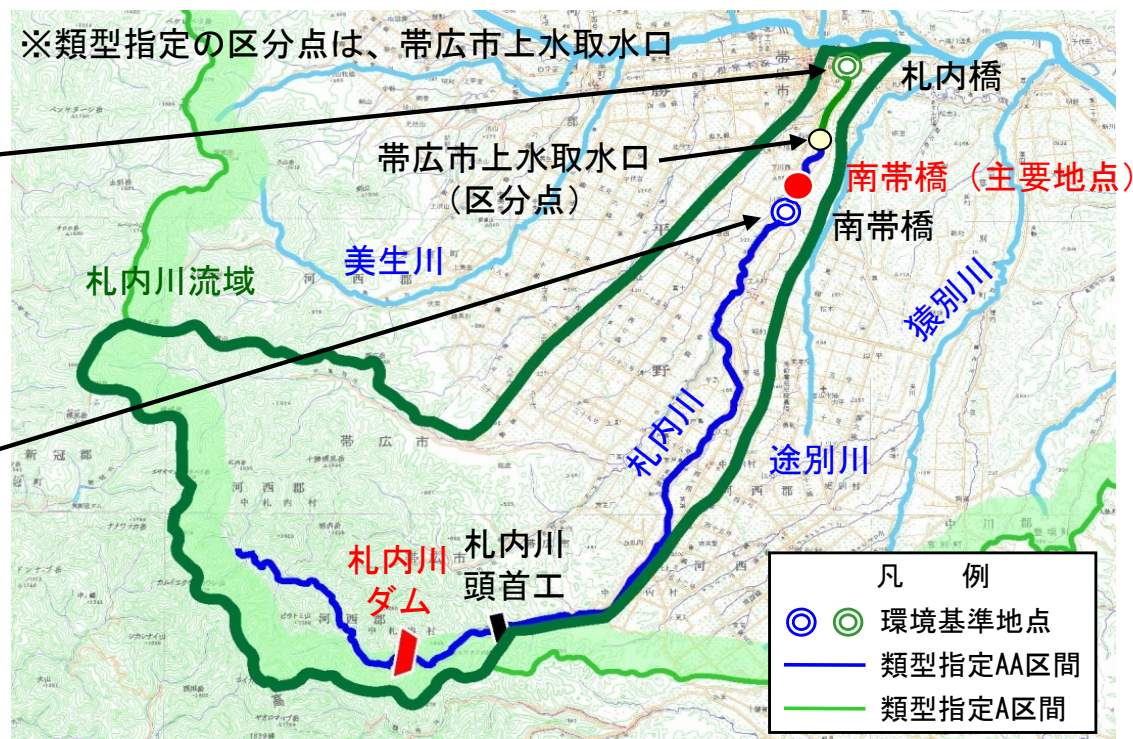
○札内川の水質（BOD75%値）は、水質基準地点である南帯橋、札内橋において、環境基準を概ね満足している。

○国土交通省が毎年公表している一級河川の平均水質ランキング^注（BOD値）において、平成3年、5年、7年～9年、11年、14年、17年の計8回清流日本一となっている。



注) 以下の条件を満たす166河川（平成18年時点）を対象として、年間の平均水質によるランキングが公表されている。

- ・一級河川本川：直轄管理区間に調査地点が2地点以上ある河川
- ・一級河川支川：直轄管理区間延長が概ね10km以上、かつ直轄管理区間に調査地点が2地点以上ある河川



○ 自然環境の現状

十勝川の一次支川である札内川は、日高山脈をバックに広い礫河原を網状に蛇行する雄大で特有の景観を有しており、高水敷にはケショウヤナギが広く分布し、特有の河川景観を呈している。札内川の広い礫河原では、水辺で営巣・採餌するイカルチドリ、コチドリ、セグロセキレイ等の鳥類のほか、昆虫類ではカワラバッタ等、魚類では礫床の清流に生息するハナカジカ等が確認されている。



■ ケショウヤナギ

※自生地の一部が北海道指定の天然記念物で氷河期の遺存種



■ 冷水性で、礫床の清流に生息するハナカジカ



コチドリ



イカルチドリ



礫河原

礫河原を網状に流れる札内川

■ 礫河原・水辺で営巣・採餌するイカルチドリ、コチドリ

札内川の礫河原を取り巻く動植物

○ 渡り鳥

十勝地方は、自然公園と重要湿地に囲まれており、当地域で確認されている鳥類は340種※¹ にのぼり、十勝川下流域や十勝海岸湖沼群周辺は、ガン類やオオハクチョウの重要な中継地となっている。特に、日本に約40羽※²しか飛来しないハクガンが北海道内で確実に飛来することが確認されているのは十勝地方のみで、多様なガン類飛来地としては北海道でも有数。礫河原を好むシギ・チドリ類にとっても重要な中継地であり、十勝川中流部や札内川等の支川には春と秋に多数飛来している。また、タンチョウの繁殖地、オジロワシ（一部繁殖）やオオワシの越冬地にもなっている。

※1参考：北海道東部鳥類目録（日本野鳥の会 十勝支部）

※2参考：十勝野鳥だより（日本野鳥の会 十勝支部）



イカルチドリ



コチドリ



イソシギ



ショウドウツバメ



カワアイサ



シノリガモ

札内川には、イカルチドリ、コチドリ、イソシギ、ショウドウツバメ、カワアイサ、シノリガモ等の渡り鳥が飛来する（一部留鳥を含む）。

なかでも、世界で日本を含む極東地方でしか繁殖しないイカルチドリにとって、礫河原の多い札内川は好適な営巣地になっていると推測される。



マガン



ヒシクイ

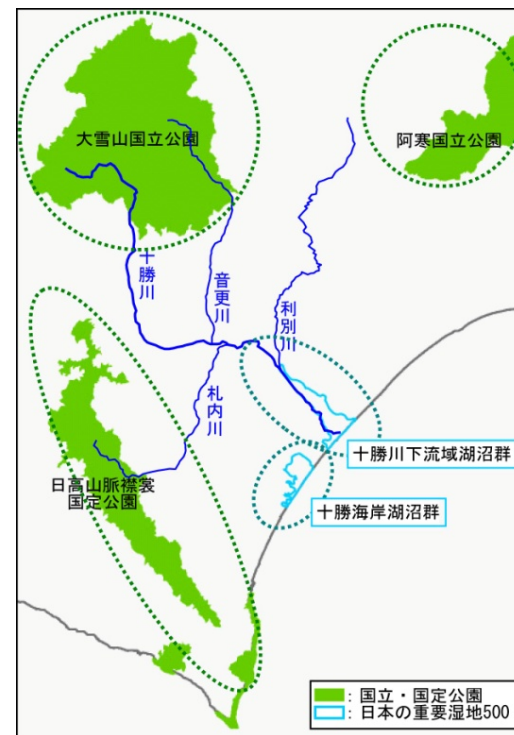


オジロワシ



オオワシ

十勝地方に飛来する渡り鳥
（一部留鳥を含む）



十勝地方の自然公園と重要湿地

◆ 札内川は、「川狩り」に象徴されるように、流域の住民にとって愛着あるかけがえのない水辺として親しまれてきた。

札内川の河川1kmあたりの水辺利用者は水系内で最も多く、河原や浅瀬での水遊び、カヌー等の利用や川の生物観察等の環境学習、高水敷での運動利用の河川利用のほか、川の清掃活動も盛んである。



「川狩り」



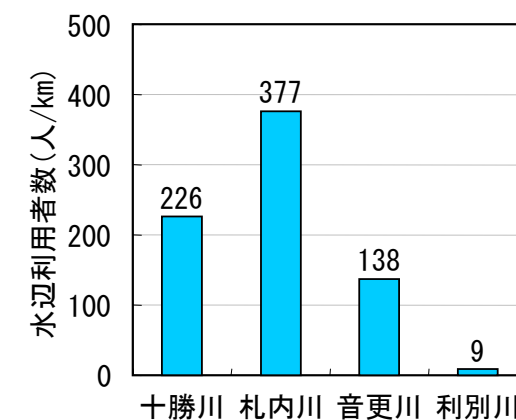
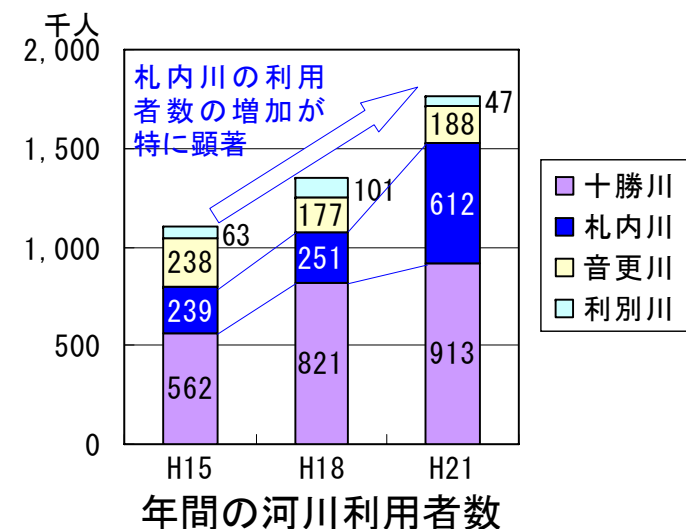
環境学習



カヌー等の川利用

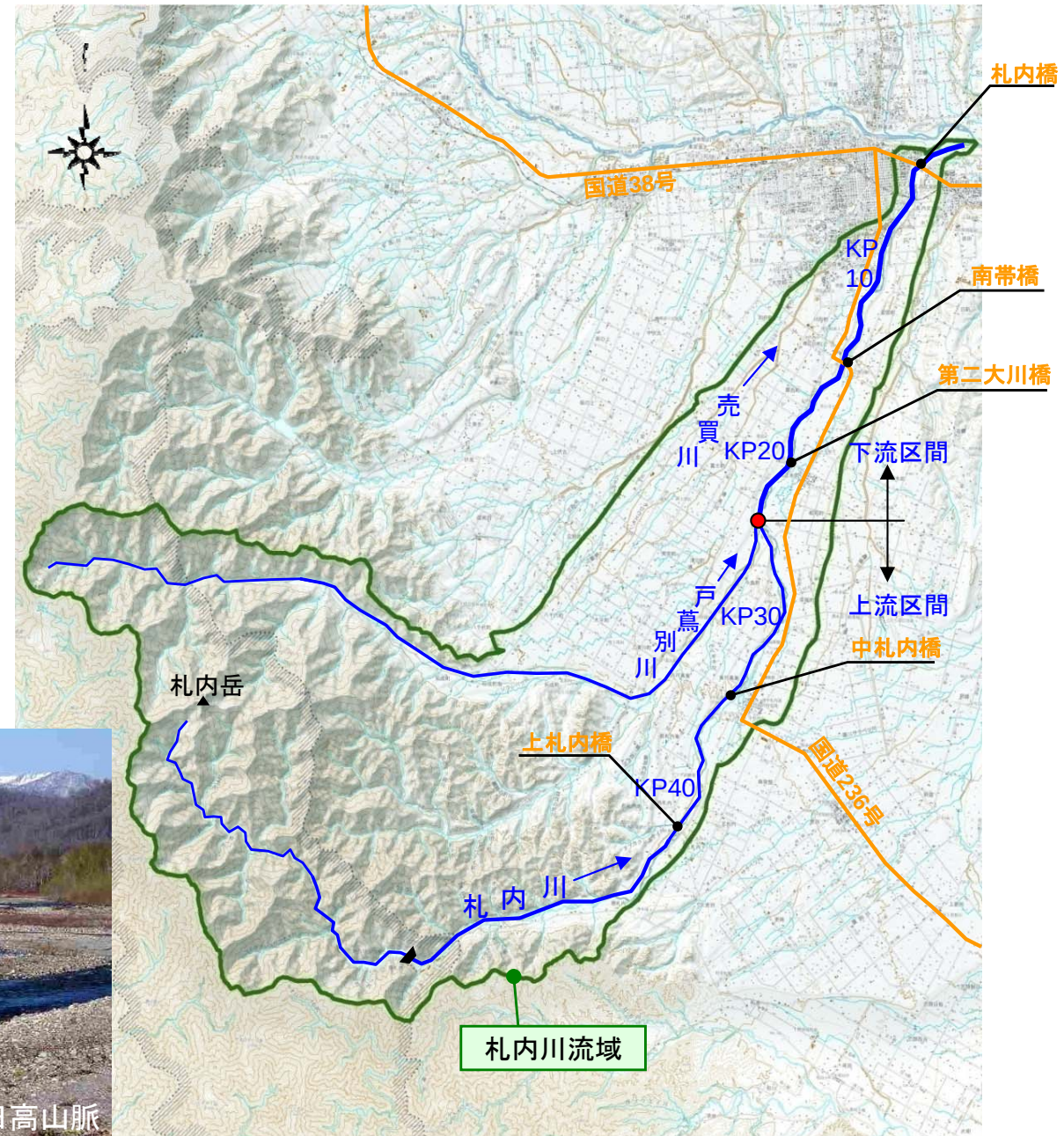


川の清掃活動



河川1kmあたりの水辺利用者数（H21年度）

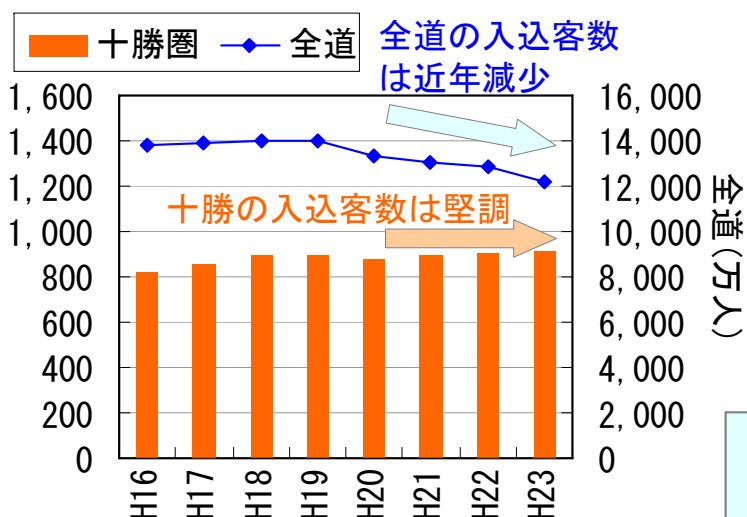
◆ 日高山脈をバックに広い礫河原を網状に蛇行する特有の景観を有している。



○ 十勝地方の観光

観光入込客数は、全道的には近年減少しているが十勝圏は堅調(図①)で、特に中札内村はH17年から急増(図②)。札内川流域3市町村への観光客数は十勝圏全体の42%超を占め、地域の観光を支えている(図③)。

札内川流域の市町村への交通アクセスは、とかち帯広空港のダブルトラッキング化(H23. 3)、道央-道東地域の高速道路直結(H23. 10)により大幅に向上。今後、川づくりを含めた地域の発展が見込まれる。

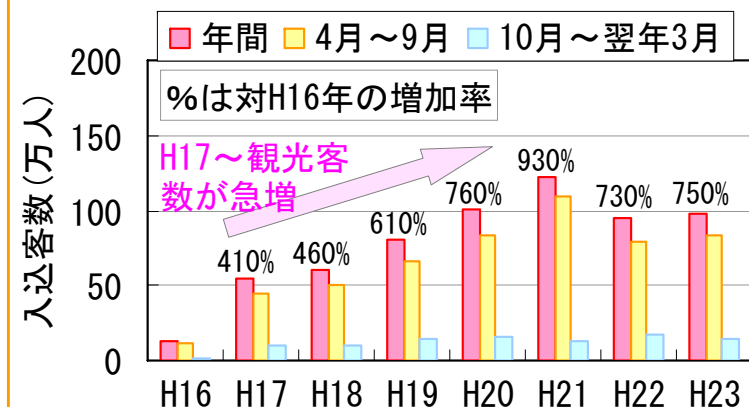


図① 十勝圏・全道の観光入込客数の推移※1

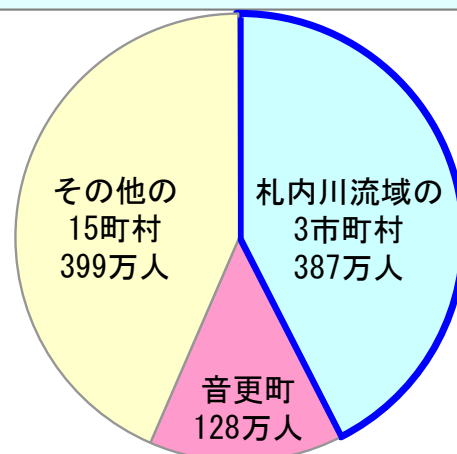
札内川流域の中札内村、帯広市、幕別町への観光客数は、十勝圏全体の42%超を占め、地域の観光を支えている。



図④ 札内川への交通アクセス



図② 中札内村の観光入込客数の推移※1



図③ 十勝圏19市町村の観光入込客数※1

表① 十勝圏主要観光拠点入込客数(H23年度)※2

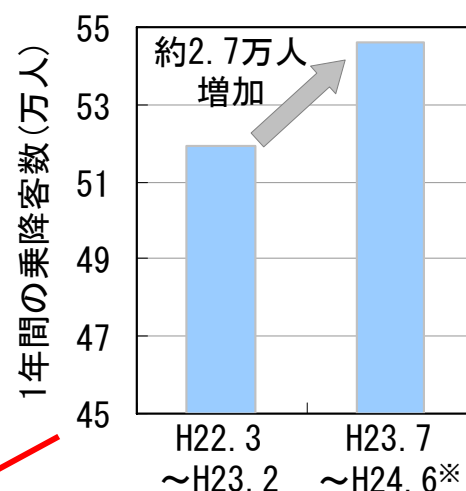
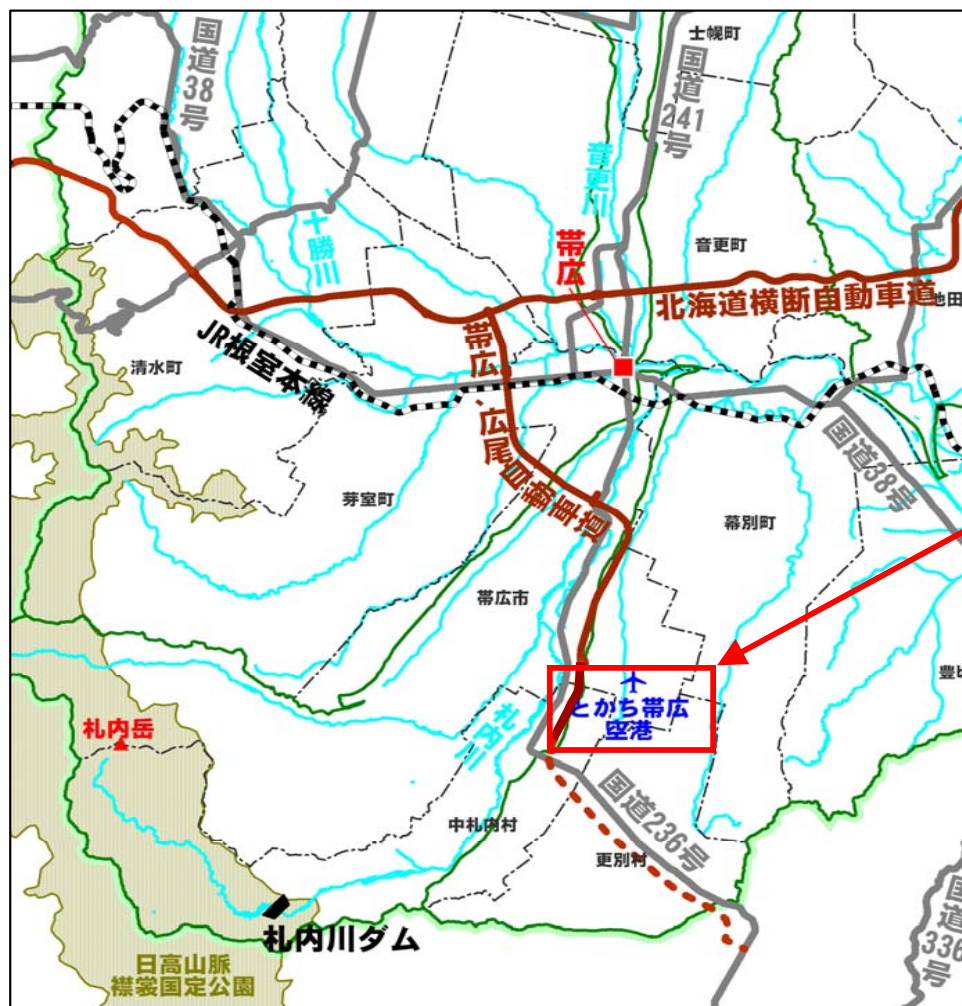
順位	市町村名	施設名	客数
1	中札内村	道の駅なかさつない	73.3 万人
2	音更町	十勝川温泉	62.1 万人
3	足寄町	オンネトー	43.7 万人

【参考※1】 湯の川温泉(函館市) : 97.0万人
 層雲峡温泉(上川町) : 56.7万人
 北海道庁赤レンガ庁舎 : 31.7万人
 網走監獄(網走市) : 18.8万人
 (上記は全てH23年度)

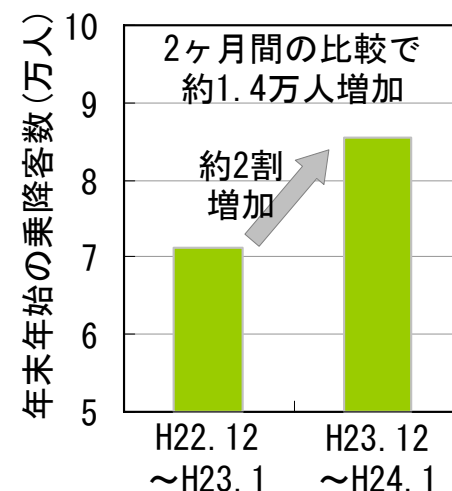
◆ 札内川流域の市町村は、十勝地域の空の玄関口であるとちち帯広空港からアクセス良好。

H23年3月に従前の日本航空に加え北海道国際航空（AIR DO）が乗り入れ（ダブルトラッキング化）
羽田空港－帯広空港間の便数が 1日4便から7便に増加し、利便性が向上。

ダブルトラッキング化前のH22. 3～H23. 2と、震災後に観光客数が概ね回復したH23. 7～H24. 6の各1年間を比較すると、乗降客数は約2. 7万人増加。特にH23年12月～H24年1月は前年同月比約1. 4万人（2割）増加。



ダブルトラッキング化前後
1年間の乗降客数の変化



ダブルトラッキング化前後
年末年始の乗降客数の変化

※東日本大震災の影響により観光客が減少したH23. 3～H23. 6は除外

乗降客数の出典：とちち帯広空港HP <http://www.tokachiobihiro-airport.jp/usage/>



◆ 札内川流域は、豊かな観光資源に加え、帯広・広尾自動車道やとかち帯広空港への良好なアクセスと相まり、今後、発展が見込まれる地域である。

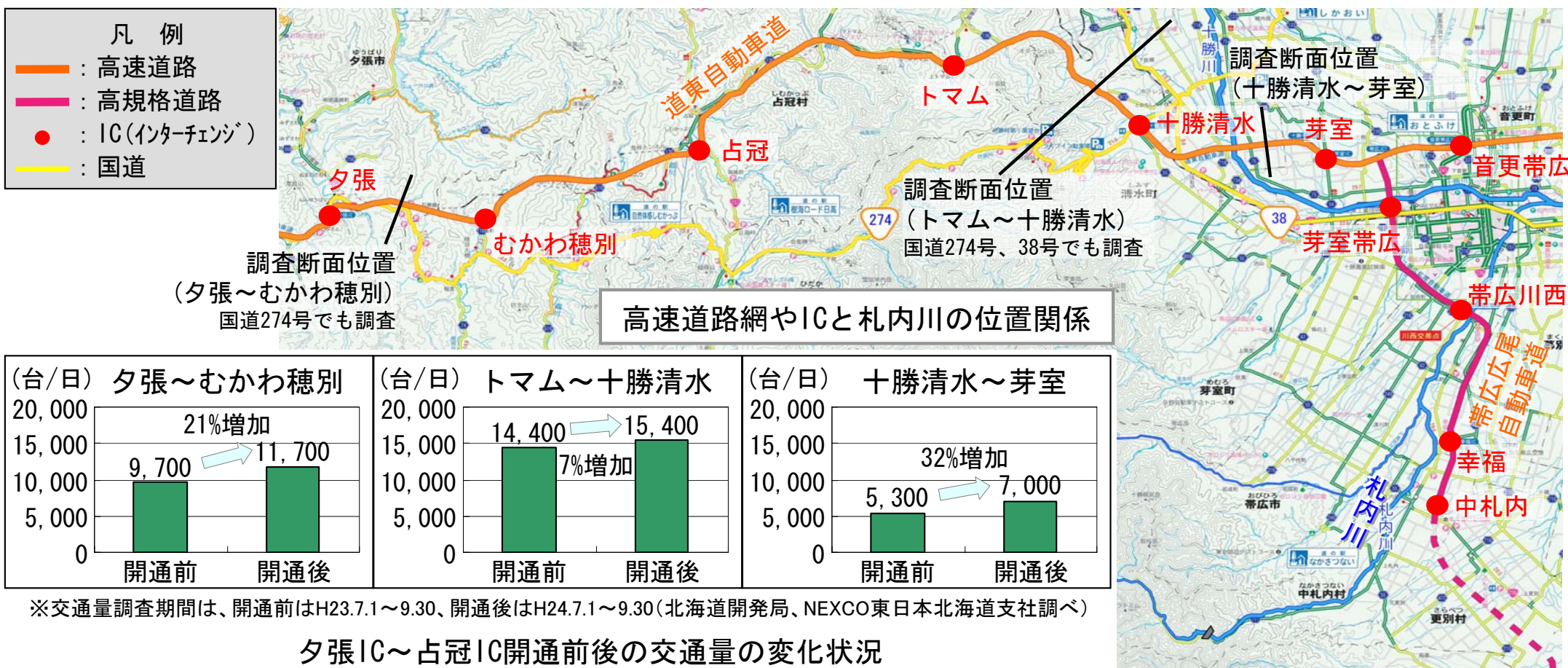
○ 道東自動車道

H23年10月に夕張IC～占冠ICが開通し、道央-道東地域が高速道路で直結。

交通量は、夕張～むかわ穂別間で21%増加、トマム～十勝清水間で7%増加、十勝清水～芽室間で32%増加（国道274号、38号での調査結果も含む）。

○ 帯広・広尾自動車道

帯広市から広尾町に至る延長約80kmの自動車専用道路で、現在は中札内までの約36kmが供用中。



◆ 札内川流域は、豊かな観光資源に加え、グリーンツーリズム等の体験・滞在型観光も盛んになってきている。



出典：真鍋庭園HP



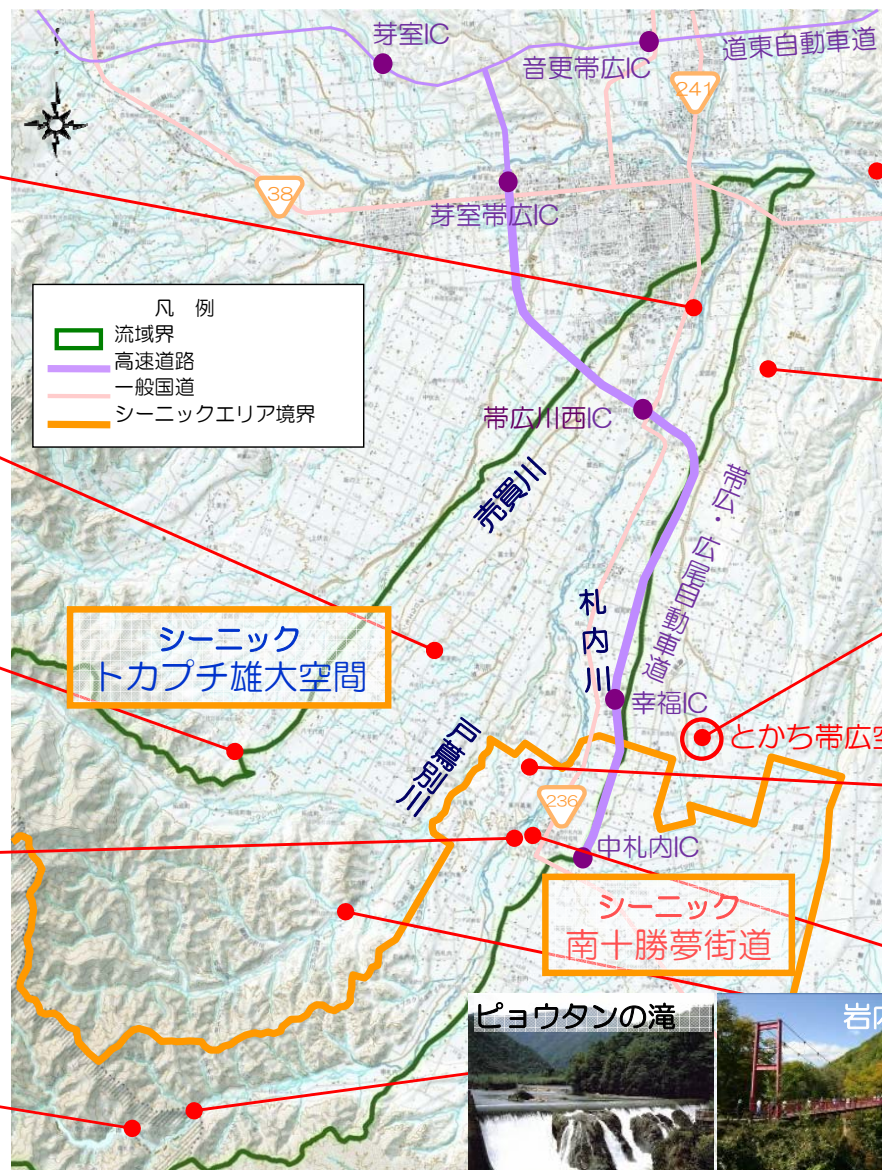
出典：紫竹ガーデンHP



出典：八千代牧场HP



出典：北海道ガーデン街道HP



出典：十勝川温泉観光協会HP



出典：北海道ガーデン街道HP



● 「シーニックバイウエイ北海道」のルートのうち、札内川は「南十勝夢街道」「トカプチ雄大空間」のエリアに位置し、広大な十勝平野や雄大な日高山脈等の豊かな景観を有している。



十勝のシーニックバイウエイ区分

○ 北海道ガーデン街道

旭川～富良野～十勝の約200km、7つの庭園【上野ファーム（旭川市）、風のガーデン（富良野市）、十勝千年の森（清水町）、真鍋庭園（帯広市）、紫竹ガーデン（帯広市）、十勝ヒルズ（幕別町）、六花の森（中札内村）】を結ぶ観光ルートを平成22年に設定し、共通券の販売、管内のホテルとタイアップした企画を実施している。

平成23年は対前年比187%増（のべ5万3千人）の利用者があり、観光ルートとして人気上昇中。
7庭園のうち、真鍋庭園、紫竹ガーデン、六花の森が札内川流域に位置する。



真鍋庭園



六花の森



※すべての写真の出典：北海道ガーデン街道HP

札内川のピョウタンの滝（札内川園地）、札内川ダム、岩内川の岩内仙峡など、上流域にも景勝地がある。



ピョウタンの滝



秋の札内川ダム



岩内仙峡

札内川流域には、畜産加工品の販売店やレストランがある八千代牧場、イチゴ狩りができるピータン農園、地域の観光拠点となっている「道の駅なかさつない」等の観光資源がある。



写真出典：八千代牧場HP

八千代牧場



写真出典：中札内村HP

ピータン農園



道の駅なかさつない

- 中札内村グリーンツーリズム推進住民会議
農業・自然を活かした体験型、滞在型観光を目指している。

平成15年12月に村民有志、JA、商工会等の協賛により設立された。



※写真及び文出典：北海道HP

- アウトドアフィールド・カヌー&ラフティング
【札内川】流れは全般的に浅く、岩がらみの小規模な瀬が多いのもこの川の特徴である。※1

【戸蔦別川】戸蔦別川は札内川の支流で川幅も広く水量も多く、かなり激しい流れのコースとなっている。



※1 文出典：北海道HP

※2 左写真出典：中札内メールHP

- 中札内農村休暇村「フェーリエンドルフ」

中札内農村休暇村「フェーリエンドルフ」は、ドイツの休暇スタイルを基本に設計された中・長期滞在型の休暇・保養施設である。



※写真及び文出典：中札内村HP

○ 札内川懇談会

札内川懇談会は、札内川について語り、「札内川」や「札内川らしさ」を活かし、地域の活性化、河川文化の継承等につなげることを目的として設立。

【札内川懇談会の開催状況】

地域住民、専門家、NPO、関係市町村等が参加して設立
地域との連携・協働により取り組みを進めている

第1回 H24年2月 ～ 意見交換

第2回 H24年6月 ～ 取り組み内容の説明

第3回 H24年8月 ～ 現地懇談会

第4回 H24年10月 ～ 川づくり中間とりまとめ

意見

今後

札内川技術検討会

かわまちづくり、地域活性化等の取り組み



札内川懇談会



懇談会開催の状況（第3回 H24. 8）

札内川懇談会 委員名簿（敬称略、五十音順）

氏 名	所属等
石垣 章	元さけます資源管理センター十勝支所長
座長 石原由美子	アトリエゆふ（十勝川流域委員会委員）
鏡 坦	河畔林伐採・管理ガイドライン委員
関川 三男	帯広川伏古地区子どもの水辺協議会
高倉 裕一	川と河畔林を考える会
田代 茂樹	十勝ネイチャーセンター
千嶋 淳	日本野鳥の会 十勝支部
千葉 利光	エールセンター十勝
藤田 勝彦	つながろう札内川水源地域の会
眞鍋憲太郎	眞鍋庭園苗畑
三上 清志	つながろう札内川水源地域の会
柳川 久	帯広畜産大学
吉原 修	NPO法人十勝多自然ネット
帯広市	行政担当、教育委員会、商工会議所
中札内村	行政担当、教育委員会、商工会
幕別町	行政担当、教育委員会、商工会
北海道	帯広建設管理部（河川管理者）
国	帯広開発建設部（治水課、ダム管理支所）

札幌川の望ましい姿

自然環境と治水

- ◆ 日高山脈をバックに広い礫河原を網状に蛇行する流れ(特有な景観)
- ◆ ケショウヤナギをはじめ、イカルチドリ、セグロセキレイ、カワラバッタ等の礫河原を更新地とする動植物が生息できる環境
- ◆ 瀬・淵・たまりという河川形状があり、豊かな水生生物が生息し、ヤマメやイワナ、イトウなどが棲める川
- ◆ 十勝川・札幌川の連続河畔林(樹林の帯)を保全し緑のネットワークを形成
- ◆ 遡上漁の産卵に適した川や、海と山との間に生態系の連続性がある川を将来像として描き、地域及び関係機関と調整を図る
- ◆ 治水安全を確保して自然と共生するための「地域とのつながり」を継承
- ◆ 川の状況変化に応じた順応的な管理を、地域とともに連携

教育・体験・文化

- ◆ 日本有数の清流札幌川の象徴「水質向上」「ゴミ不法投棄の防止」「川を大事にする文化」を育成
- ◆ 「川狩り」に象徴されるように、流域の住民にとって愛着あるかけがえのない水辺
- ◆ 河原や河畔林を舞台に環境学習や体験活動を実施し、地域を通じて子どもたちが水難事故に遭わないような危機管理の教育

利用・観光

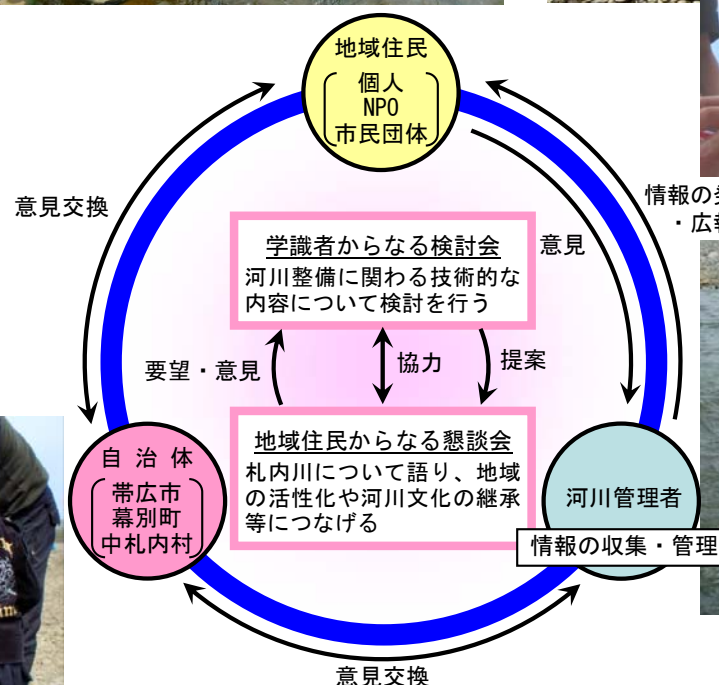
- ◆ 川のダイナミズムを継承し、ワイルドに川を利用
- ◆ 流域の豊かな観光資源とグリーンツーリズム等の体験型観光と川づくりから地域を発展



◆札内川ダム水源地域ビジョン
札内川ダムを活かし、札内川流域の連携と交流によるバランスのとれた流域圏の発展を目的として、中札内村の住民等が参加を呼びかけて活動。



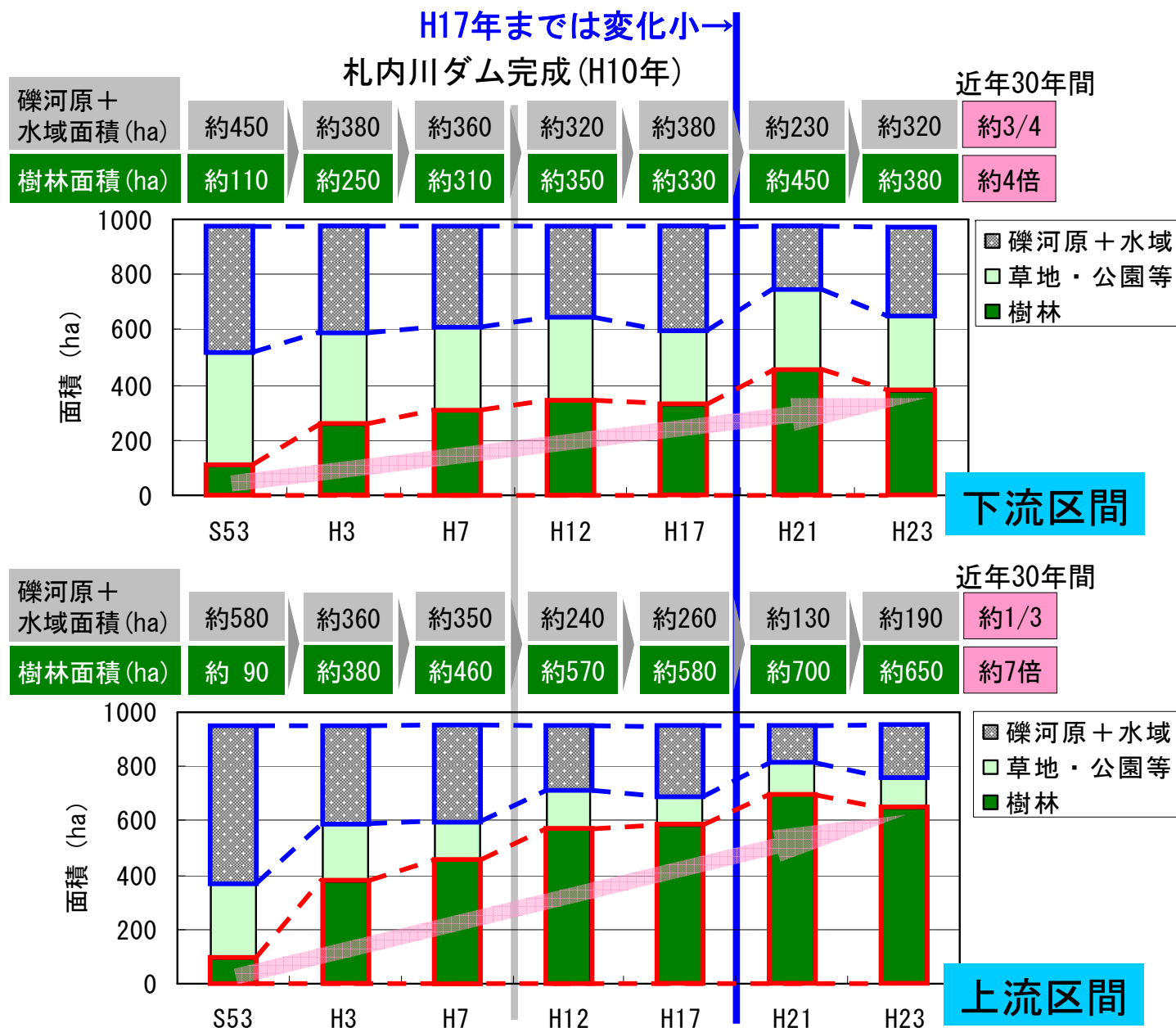
◆クリーンウォークとかちin札内川
清流札内川を地域の宝物として感じている「地域住民」の主導により、河川美化や川の大切さの継承を目的として毎年5月に開催。
・参加人数は年々増加。約600名（H24実績）
・河川管理者は集積されたゴミの処理等の協力を行っている。



自然再生計画における地域及び関係機関との連携のイメージ



◆近年、河道内の樹林化が著しく、かつて河道内に広く見られた礫河原が急速に減少している。



- ◆ 札内川の河畔には、氷河期の遺存種で国内のごく限られた地域にしか生育していないケショウヤナギが広範囲に生育している。
- ◆ 礫河原が減少し、ケショウヤナギの更新地環境の衰退が懸念されている。



礫河原へのケショウヤナギ実生の定着状況

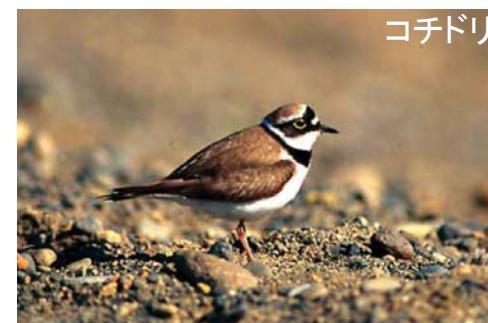


札内川の風景「礫河原」と「ケショウヤナギ林」



ケショウヤナギの国内分布

○近年の急速な河道内の樹林化、礫河原の減少により、世界で日本を含む極東地方でしか繁殖しないイカルチドリをはじめ、コチドリやイソシギなど、礫河原で繁殖する渡り鳥が札内川へ飛来しなくなるおそれがある。



※下記の文献を参考に分布位置図を作成
 ・新山馨, 1989. 札内川に沿ったケショウヤナギの分布と生育地の土性, 日本生態学会誌, No.39, p.173
 ・岩田修二ほか, 1995. 上高地梓川の河床地形変化とケショウヤナギ群落の生態学的研究, 上高地自然史研究会
 ・植物絶滅危惧種分布図(環境省)

- 河道内の樹林化、礫河原の減少により、水辺利用できる場所が制限され、利便性、安全性が低下し、「川狩り」に象徴される河川利用文化の衰退のおそれがある。
- 水辺を利用するためには密生した樹林を通る必要があるなど、川へのアクセス性も悪化している。
- 札内川へのゴミ不法投棄量は、十勝川本川や近傍の音更川と比較して著しく多い。不法投棄は、樹林化していて、人目につかない箇所が多くみられる。

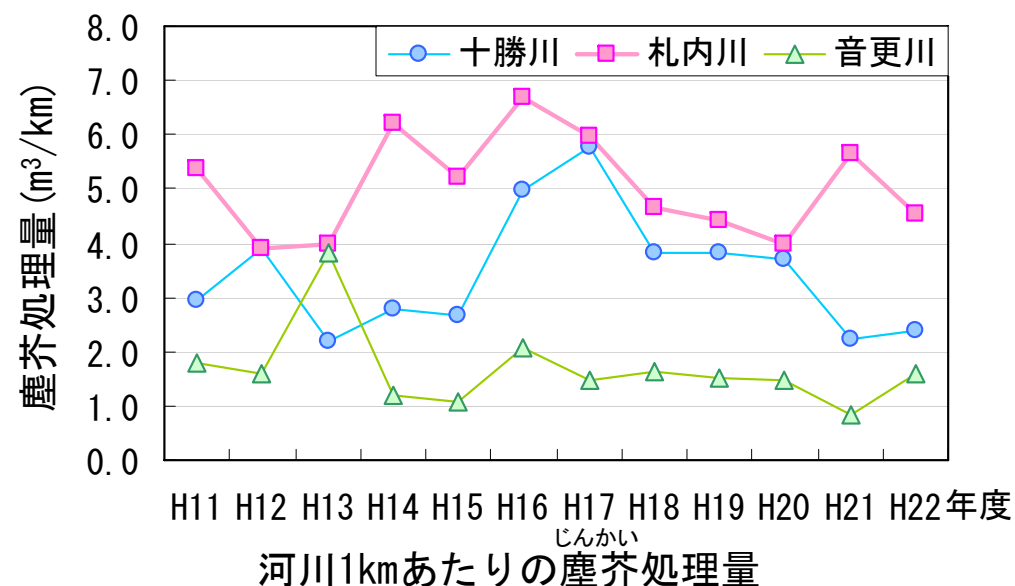


「川狩り」の様子



礫河原に樹木が定着し、水辺利用できる場所が制限されている

札内川への不法投棄量は、十勝川本川や近傍の音更川と比較して著しく多い。



ゴミ不法投棄の状況

○河道内に繁茂した樹木は洪水時の流れを阻害するため、河道内の樹林化により流下能力不足となるおそれがある。

○河道内の樹林化により流下能力不足となった場合は、樹木管理のための労力と費用が増大する。

以前の状況



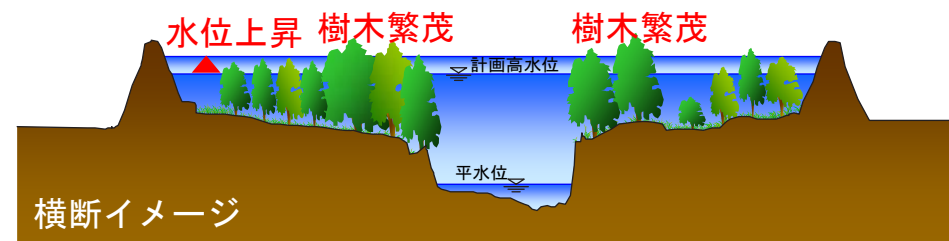
- ・ 平面的に連続した広い礫河原
- ・ 草本や低木がまばらに生育

現在の状況



- ・ 高水敷から礫河原上まで全体が高木林で、河原はほとんどみられない

- ↓
- ・ 河道内の樹林化による流下能力の低下



- ・ 河道内の樹林化により流下能力が不足する危険性が高まるため、樹木管理が必要になる。
- ・ 樹木管理は、人力や重機での樹木伐開作業が必要で、多大な労力と費用が必要になる。



人力での河道内の樹木伐開状況



重機での河道内の樹木伐開状況



重機での伐木集積・搬出状況

- ◆ ケショウヤナギの生育環境の保全に加え、札内川特有の河川環境・景観の保全を目的として、礫河原の再生に向けた取り組みを行うために札内川技術検討会を設立。
- ◆ 札内川における礫河原再生の取り組みについては、平成24年11月に策定した「札内川自然再生計画書」を踏まえ、地域住民及び関係機関等と連携し、治水安全度を確保しつつ、河川環境の整備・保全を実施可能な範囲で行う。

【札内川技術検討会の開催状況】

礫河原再生に関する技術的な内容について検討

第1回	H23年 9月	～	現状と課題
第2回	H24年 3月	～	目標と対策案
第3回	H24年 6月	～	自然再生の計画（案）
第4回	H24年10月	～	自然再生計画書の策定※

札内川懇談会
（地域連携）

地域の声を反映

札内川技術検討会 委員名簿（敬称略，五十音順）

氏 名	職 名	所属等
泉 典洋	教 授	北海道大学大学院 工学研究院
斎藤 新一郎	所 長	環境林づくり研究所
委員長 中村 太士	教 授	北海道大学大学院 農学研究院
藤巻 裕蔵	名誉教授	帯広畜産大学
丸山 純孝	名誉教授	帯広畜産大学
柳川 久	教 授	帯広畜産大学
渡邊 康玄	教 授	北見工業大学
オブザーバー		（独法）土木研究所 寒地土木研究所

札内川自然再生（礫河原再生）
計画書

平成 24 年 11 月

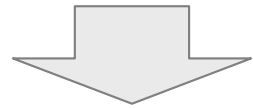
国土交通省 帯広開発建設部
北海道開発局

検討会開催の状況（第4回 H24. 10）

※自然再生計画書の策定はH24年11月

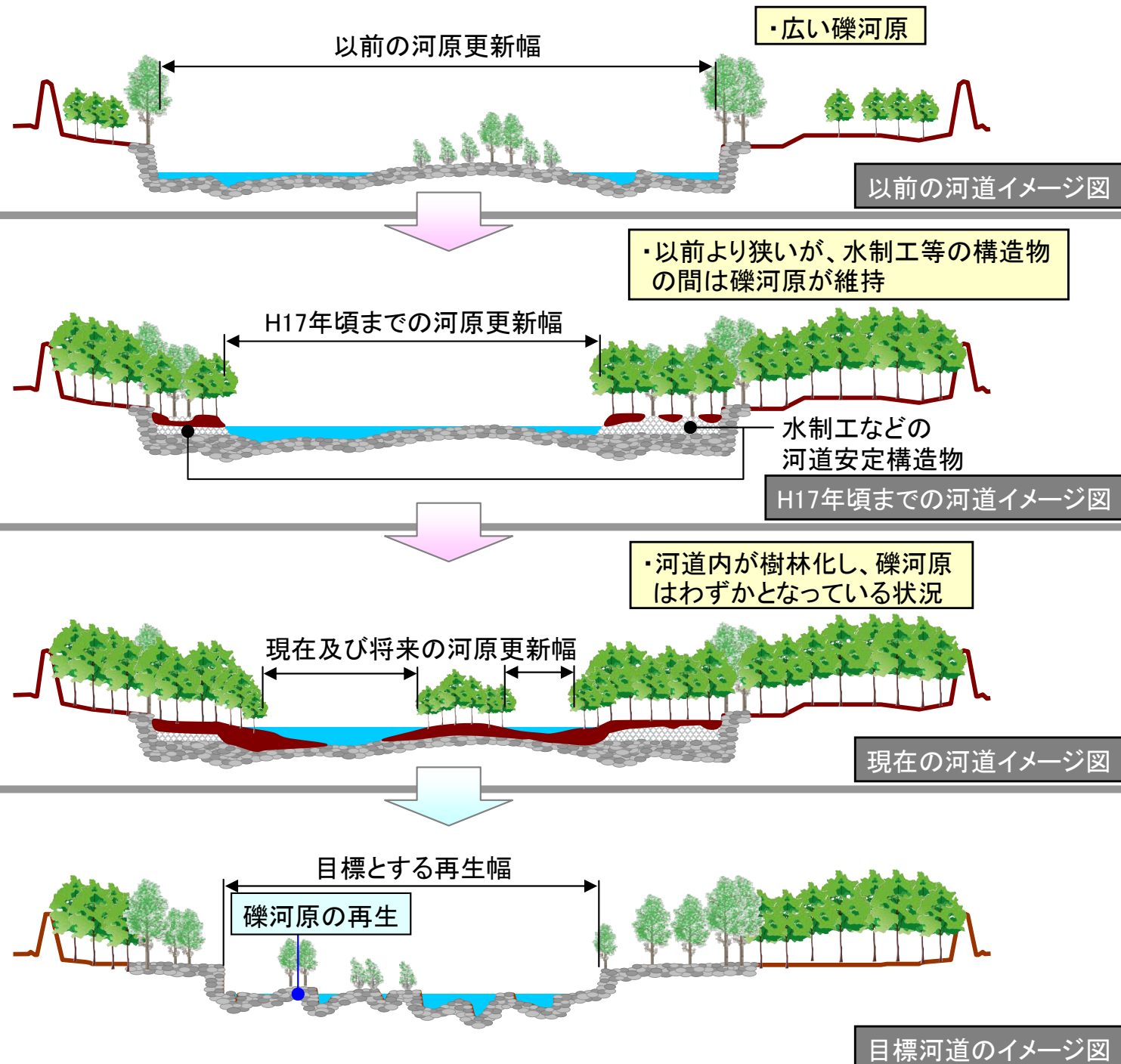
【望ましい河原の姿に向けて】

札内川に生息、生育、繁殖する動植物にとって良好な河川環境をめざし、川の流れが持つ営力により礫河原を更新できるシステムの再生を図る。



【当面の目標】

札内川の河川環境、利用、観光等の観点から優先度の高い区間を選定し、そこを拠点として礫河原再生の取り組みを効果的に実施する。また、モニタリングにより河川環境の変化を把握し、取り組みの効果について検証を行う。



◆ 礫河原再生の取り組みの実施の際は、自然の反応をモニタリングしながら、段階的に事業を実施していき、その状況の変化に応じて具体的な取り組み内容を順応的に見直していくものとする。

○ 礫河原再生の手法と期待される効果

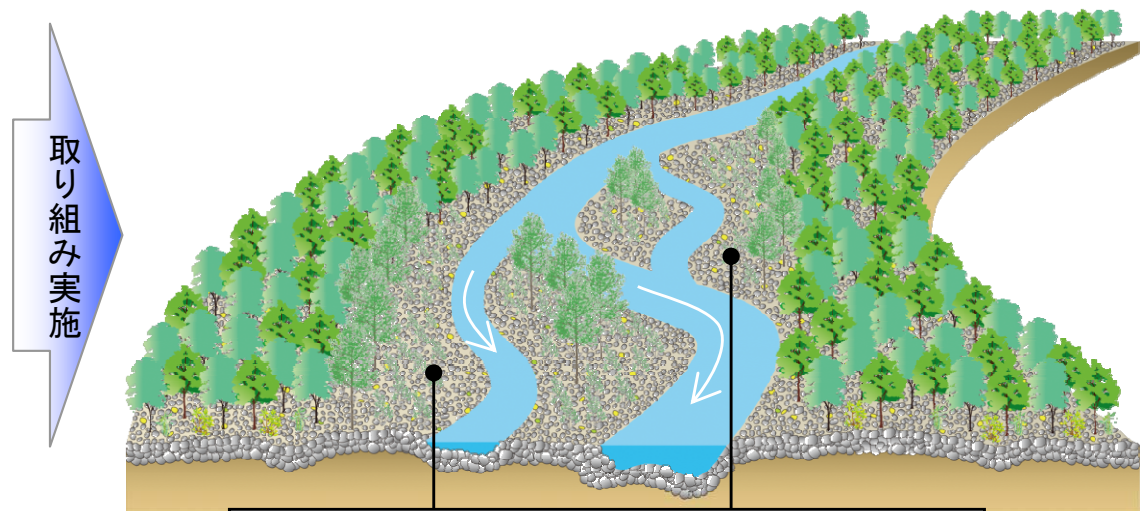
自然の攪乱リズムを復活させる取り組みにより、流路変動や河床攪乱により礫河原が再生し、礫河原依存種が世代交代していくことができる河川環境が回復すると期待される。

【礫河原再生の手法の考え方】

例えば、流路の一部掘削や既設ダムを活用など、自然の攪乱リズムを復活させて礫河原の再生、川の更新環境の回復を図る。



礫河原が減少しつつある札内川

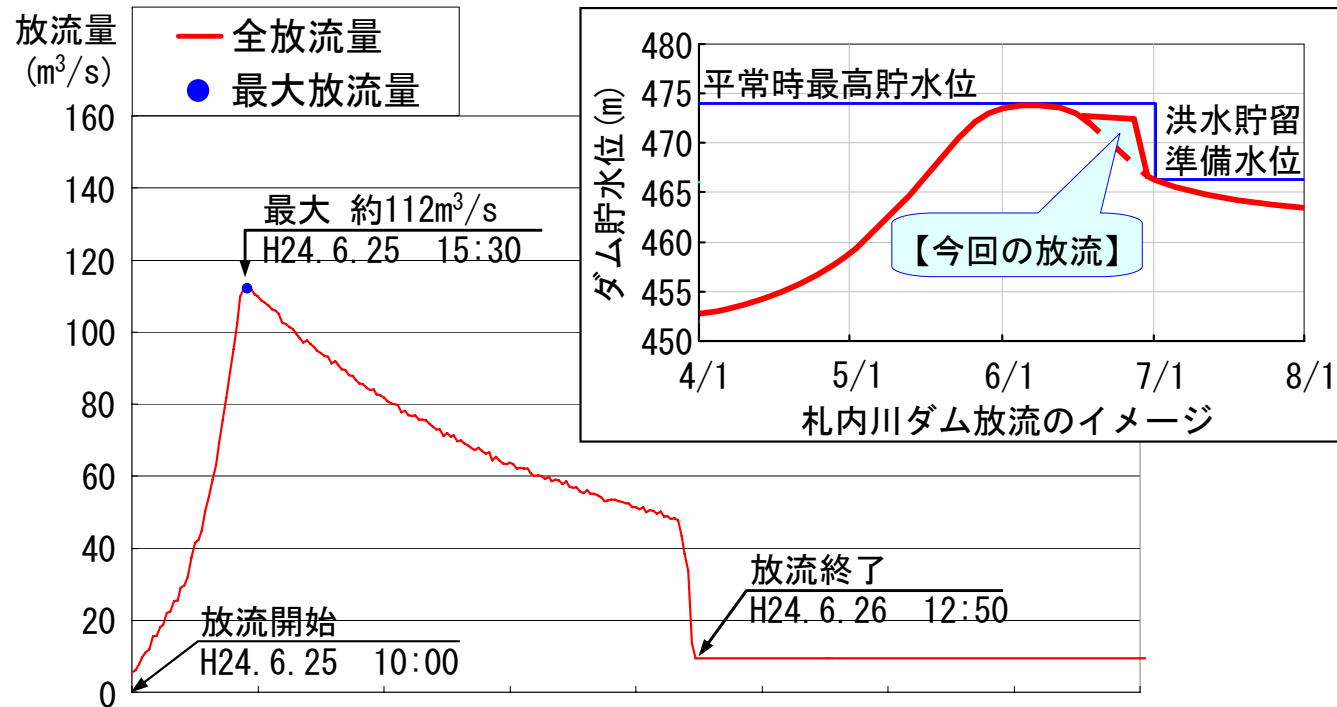


- ・ 流路変動や河床攪乱による礫河原再生
- ・ 礫河原依存種の世代交代

礫河原再生の取り組みにより期待されるイメージ

○ ダム放流

最大放流量約 $112\text{m}^3/\text{s}$ のダム放流を行い、放流による河道変化、側岸侵食、礫河原形成、ヤナギ類実生流出状況等をモニタリングした。



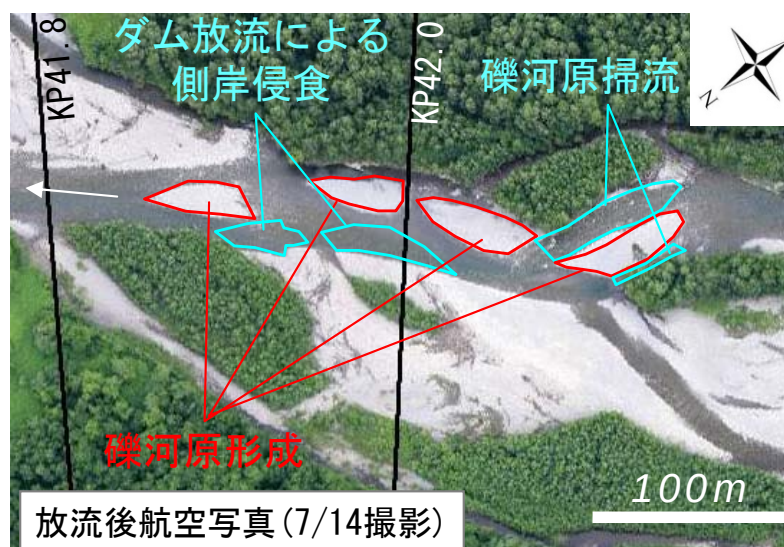
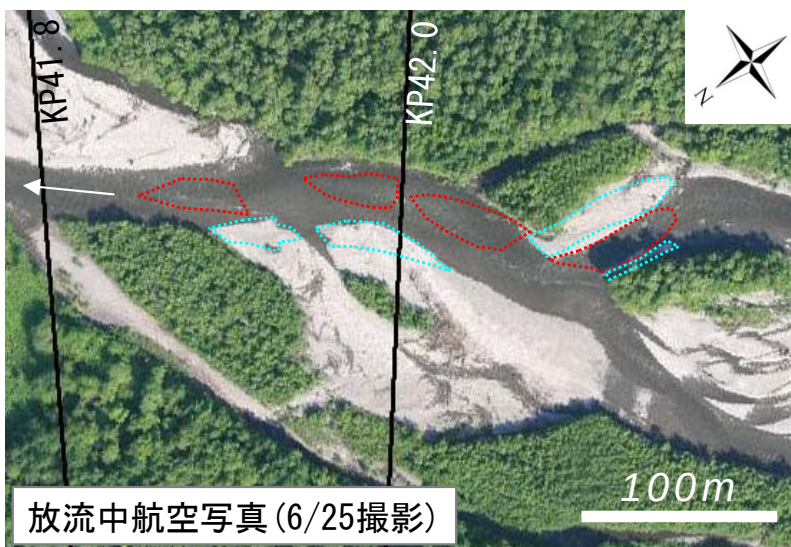
○ ダム放流前後の河道変化状況

ダム放流による変化状況を上札内橋（KP41.8）から観察したところ、側岸侵食や新たな礫河原形成等の攪乱効果がみられた。



※1 上札内観測所のH-Q式による換算流量

ダム放流前後の変化状況（上札内橋（KP41.8）から上流を望む）



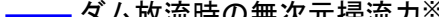
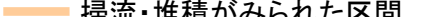
○ : 砂州の移動 (掃流) ※2
 ○ : 新たな砂州の堆積

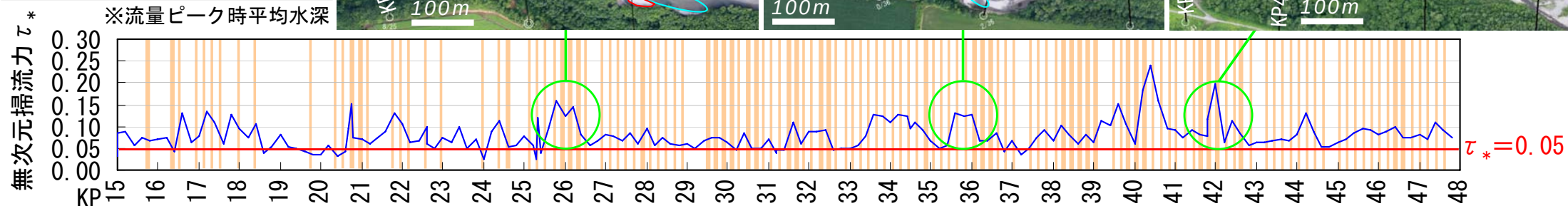
※2 6/25は放流による水位上昇中で、7/14より6/25の水位の方が10cm程度高い

ダム放流前後の変化状況（航空写真 KP42.0付近）

- ダム放流による掃流、堆積の発生状況
特に上流側の大部分において掃流、堆積がみられた。

航空写真凡例※
 掃流箇所（礫河原等の掃流）
 堆積箇所（新たな礫河原の形成）

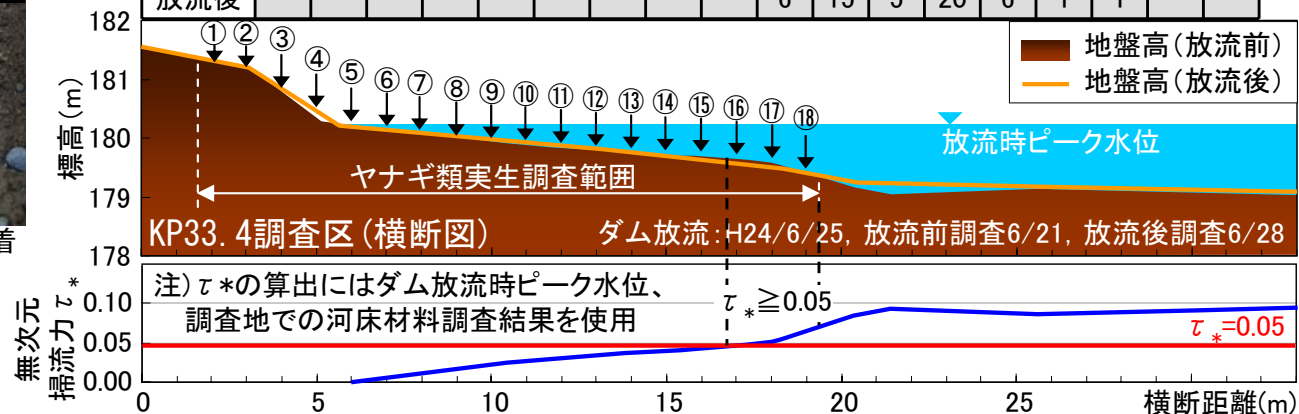
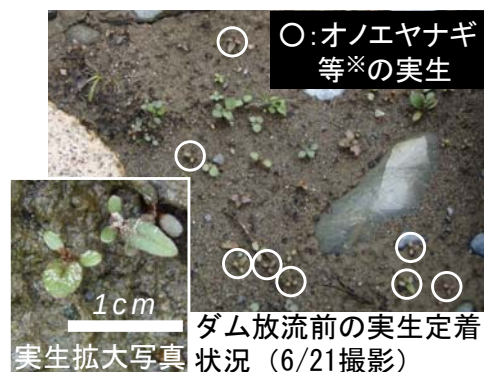
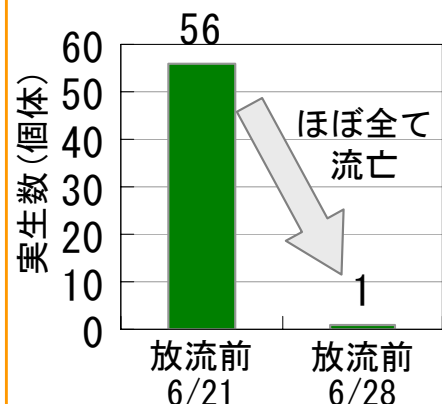
グラフ凡例
 ダム放流時の無次元掃流力※
 掃流・堆積がみられた区間



- ダム放流によるヤナギ類実生流亡状況
KP33.4調査区で河川横断的にヤナギ類実生の個体数を調査した結果、ダム放流により $\tau^* \geq 0.05$ となった区域ではほぼ全ての実生が流亡した。

ヤナギ類実生数 ⑤～⑮:ダム放流時冠水範囲 ⑯～⑰:ダム放流時 $\tau^* \geq 0.05$ となった範囲

区画	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱
放流前	-	-	-	-	-	-	-	-	4	12	16	13	33	26	40	13	19	24
放流後	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	15	5	20	6	1	1	-	-



$\tau^* \geq 0.05$ となった範囲の
オノエヤナギ等※の実生流亡状況

※オノエヤナギ、
エゾキヌヤナギ

河川整備計画（目次）

(2) 内水被害を軽減するための対策	80
(3) 広域防災対策	80
1) 水防拠点等の整備	80
2) 光ファイバー網等の整備	82
(4) 地震・津波対策	83
2-1-2 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項	84
2-1-3 河川環境の整備と保全に関する事項	84
1) 河畔林の保全、河岸の多様化	84
2) 魚がすみやすい川づくり	85
3) 河川景観の保全と形成	86
4) 人と川とのふれあいに関する整備	87
5) 地域と一体となった川づくり	88
2-2 河川の維持の目的、種類及び施行の場所	89
2-2-1 洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項	89
1) 河川の維持管理	89
1) 河川情報の収集・提供	90
2) 河川管理施設の維持管理	90
3) 危機管理体制の整備	96
2) 災害復旧	98
2-2-2 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持、 並びに河川環境の整備と保全に関する事項	99
1) 水質保全	99
2) 水質事故への対応	99
3) 渇水への対応	99
4) 河川空間の適切な利用、管理	99
5) 河川美化のための体制	100
6) 地域と一体となった河川管理	100

変更案（目次）

(2) 内水被害を軽減するための対策	80
(3) 広域防災対策	80
1) 水防拠点等の整備	80
2) 光ファイバー網等の整備	82
(4) 地震・津波対策	83
2-1-2 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項	84
2-1-3 河川環境の整備と保全に関する事項	84
1) 河畔林の保全、河岸の多様化	84
2) 魚がすみやすい川づくり	85
3) 河川景観の保全と形成	86
4) 人と川とのふれあいに関する整備	87
5) 地域と一体となった川づくり	88
(6) 札内川における取り組み	ページ追加
2-2 河川の維持の目的、種類及び施行の場所	89
2-2-1 洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項	89
1) 河川の維持管理	89
1) 河川情報の収集・提供	90
2) 河川管理施設の維持管理	90
3) 危機管理体制の整備	96
2) 災害復旧	98
2-2-2 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持、 並びに河川環境の整備と保全に関する事項	99
1) 水質保全	99
2) 水質事故への対応	99
3) 渇水への対応	99
4) 河川空間の適切な利用、管理	99
5) 河川美化のための体制	100
6) 地域と一体となった河川管理	100

(6) 札内川における取り組み

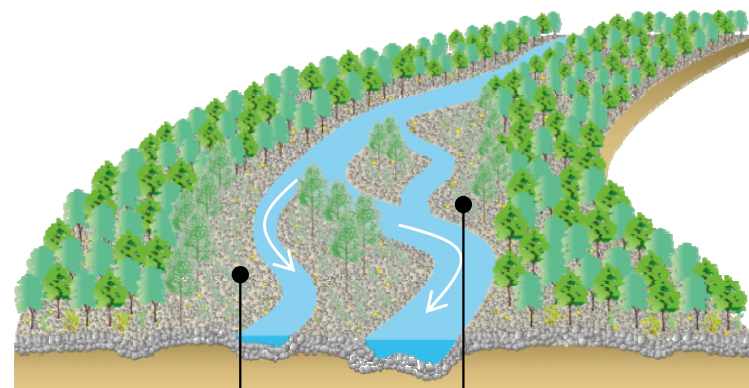
札内川は、「川狩り」に象徴されるように、流域の住民にとって愛着あるかけがえのない水辺として親しまれてきた。さらに、日高山脈をバックに広い礫河原を網状に蛇行する流れが札内川特有な景観や、豊かな観光資源に加え、グリーンツーリズム等の体験・滞在型観光も盛んになってきており、帯広・広尾自動車道や十勝地域の空の玄関口であるとかち帯広空港への良好なアクセスと相まり、今後、川づくりを含めた地域の発展が見込まれる地域である。

一方、近年、河道内の樹林化が著しい札内川では、かつての河道内に広く見られた礫河原が急速に減少しており、氷河期の遺存種であるケショウヤナギの更新地環境の衰退が懸念されている。そのため、ケショウヤナギ生育環境の保全に加え、札内川特有の河川環境・景観を保全するため、礫河原の再生に向けた取り組みを行うとともに、地域と一体となって川まちづくりに取り組むなど、地域の発展に寄与する川づくりに努める。

札内川の礫河原再生の取り組みについては、「札内川自然再生計画書」を踏まえ、地域住民及び関係機関等と連携し、治水安全度を確保しつつ、河川環境の整備・保全を実施可能な範囲で行う。実施の際は自然の反応をモニタリングしながら、段階的に事業を実施していき、その状況の変化に応じて具体的な取り組み内容を順応的に見直していくものとする。



礫河原が減少しつつある札内川



- ・ 流路変動や河床攪乱による礫河原再生
- ・ 礫河原依存種の世代交代

礫河原再生の取り組みにより期待されるイメージ